

「友達とのセックス。」



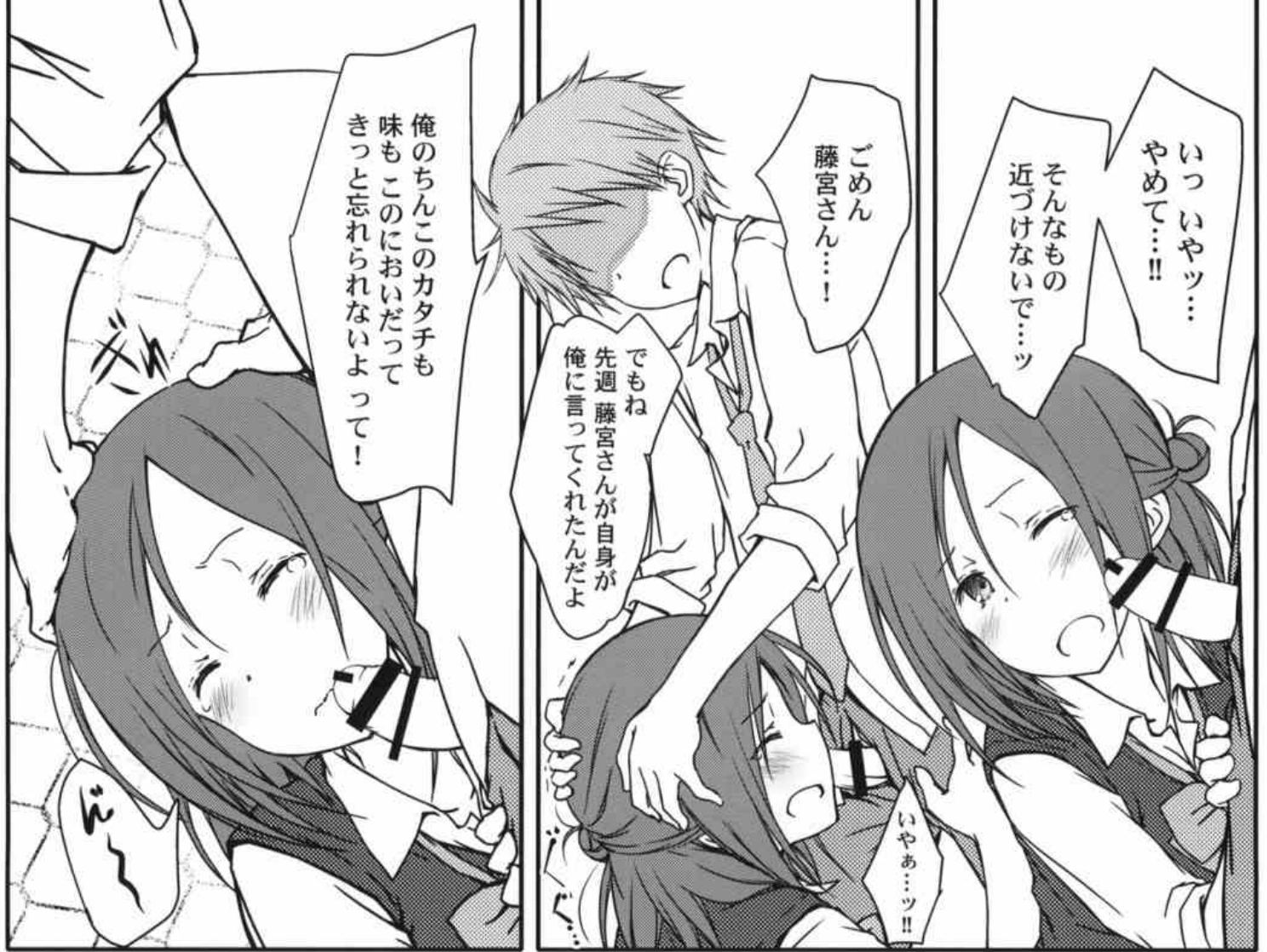
コラ職人

おまわりさんこの人です









いついやッ…
やめて…!!

そんなもの
近づけないで…ッ

ごめん
藤宮さん…!!

でもね
先週藤宮さんが自身が
俺に言ってくれたんだよ

俺のちんこのカタチも
味もこのにおいだって
きつと忘れられないよって!

いやあ…ッ!!



なんで…

さあもつと…!!

先週までの日記の私…
あんなに楽しそう
だったのに…



さあ藤宮さん
先週してくれたみたいに
ちゃんと味わって…!!



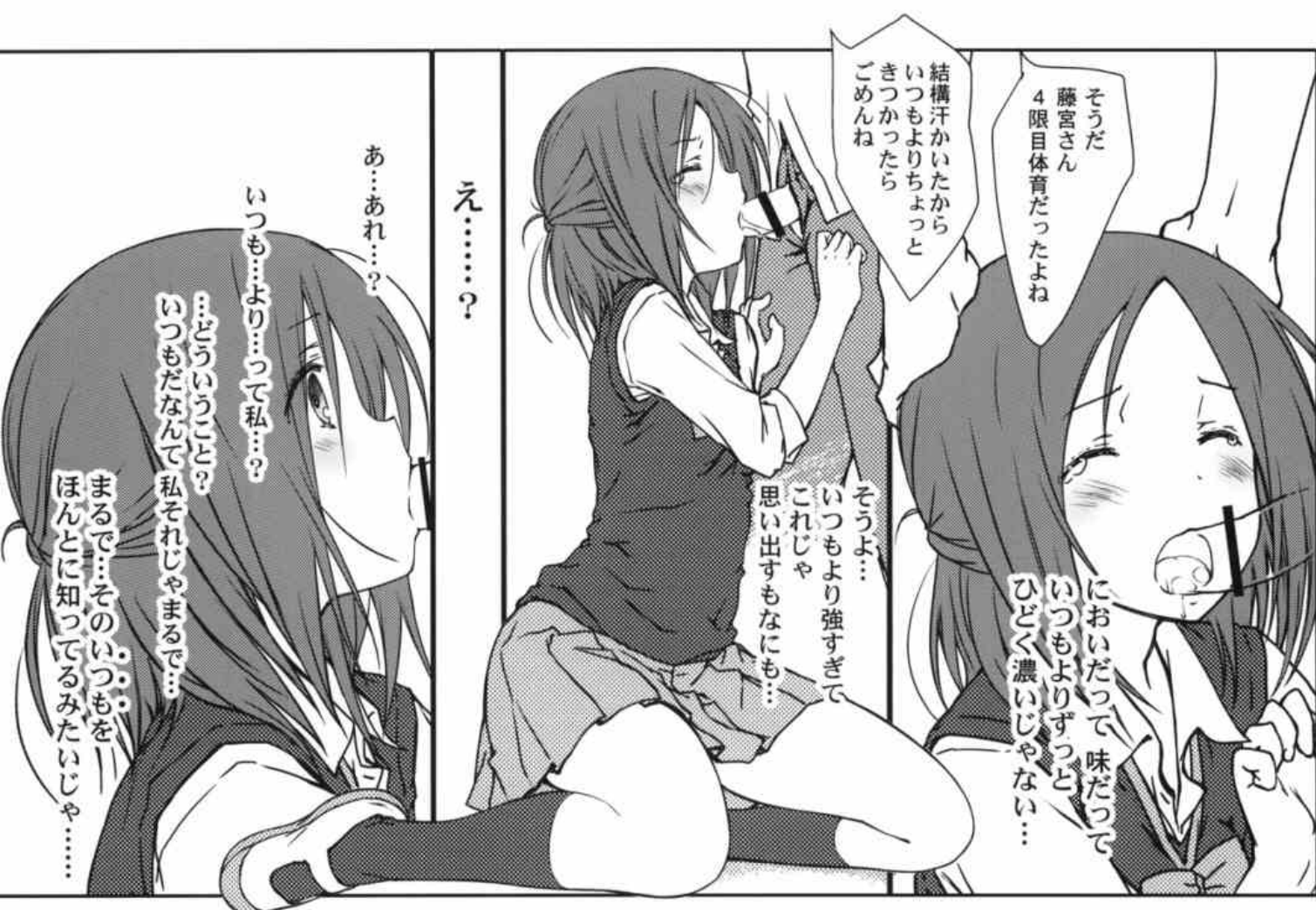
なんで今日はこんなことに
なっちゃってるの…

なんなの…この味…
ひどい…

にちっ



んっ



そうだ
藤宮さん
4限目体育だったよね

結構汗かいたから
いつもよりちよっと
きつかったら
ごめんね

においだって味だつて
いつもよりずつと
ひどく濃いじゃない…

そうよ…
いつもより強すぎて
これじゃ
思ひ出すもなにも…

え……？

あ…あれ…？

いつも…より…って私…？

…どういうこと？
いつもだなんて私それじゃまるで…

まるで…そのい…つもを…
ほんとに知ってるみたいじゃ…



どうして……？

私…この味
ほんとに
知ってる……



いきッ…息してる?!

ごめん！藤宮さん



ふッ…藤宮さん?!

わッ!!

…藤宮…さん？



ど…どう…
藤宮さん

俺たちのこと
なにか思い出して……



俺のこと
思い出して
くれたの?!!

そッ:
そうじゃないのッ!
わからないのッ

やっぱり
なにも思い出せなくて
だけど...



長谷くん:
なのかな...?

もしかして
あなたが本当に...

それって
藤宮さん...



ああッ

まだまだ苦しい?
大丈夫?息できる?

も...もう
大丈夫...

あの...
あなたが
もしかして...

え...
なに?



だけど私...

確かに
あなたの...味に
憶えがあったの

それに...なぜか
嫌な感じでも
なくて...



そしたらきつと
俺たちのこと
もつともつと
思い出して
もらえると思うから!

な...



俺とまた
セックス
してくれませんか!!!

お願いします!



藤宮さん...

藤宮さん...

お...俺と...



あ…あれ？って
なんですか！

な…何？
私…どこか変なの？！

藤宮さん
すごいよ

あそこからもう
糸引いちやつてる

ほら見て

まだなにも
触ってないのに
パンツまで
べったり

俺のちんこ
啜えただけで
こんなになっちゃう
なんて

藤宮さん
やっぱり身体のほうは
憶えててくれたんだね

う…うそ…
そんなこと…

だって…そんな私…

恥ずかしがること
ないよ…藤宮さん

あ…ッ

だ…ダメ…ッ！

それだけ
藤宮さんが
感じやすいって
ことなんだし
人一倍セックスを
愉しめて
得だと思おうよ

それに俺も
藤宮さんが感じて
くれるのは
すっごく嬉しいし

ほらこうして
軽く触ってあげる
だけで

藤宮さんはすぐ
気持ちよく
なっちゃうんだから

聞こえる？ 藤宮さん

藤宮さんのおまんこから
びちゃびちゃって
エッチな音が
するでしょ

うそ…私…なんで…
本当に…そうなの…?!

ほら俺の指も
藤宮さんの中まで
簡単に入っちゃう

もう何度もこの人と
セックスしちゃって
私…そんなにエッチな体
になっちゃってるの…?

だッ…だめ…

ダメ…私気持ちよく
なっちゃって今はもう
何も考えられないよ…!!

ダメだよ 長谷くん

そんなに中…かき回しちゃ
私 イッチャッ…あッ…

…あッ!

藤宮さん
今俺のこと…

俺のこと「長谷くん」
って呼んでくれた!

え…
わ 私…?

藤宮さん どう?
俺のことわかる?

長谷…くん…?

ダメ…
やっぱり
わからない…

頭の中がすごく
もやもやして…
はつきりしないの…



ねえ藤宮さん…
もう少し進めば
藤宮さんの記憶取り戻せる
と思わない…？

もう最後まで…！！

藤宮さんとの約束…
俺からは破れないけど

藤宮さんのほうから
コレ…挿れちゃってくれたら…

最後までしないって
約束…藤宮さんが無しに
する分にはいいよね…



コレ…って

おちんちん…

さっきの…



ごめんなさい…
やっぱりだめみたい…

でも今…私無意識に「長谷くん」って呼んでた…

なんなの…この体の中が
もやもやした感じ…

きつとあと少しなのに
カタチがはつきり
しないような
変な感じ…

そっか…
しょうがないよね…

でも絶対…
さっきの藤宮さんは
俺との記憶
取り戻しかけてた…
だったら…



さ…先っぽだけ…

はあ

先っぽのほう
ちよつと当てて
みるだけ…



それくらいなら
いいよね…

あ…あツ…



なんでだろ…
さっきあんな酷いことされた
おちんちんなのに…
もう怖くない…

はあ

はあ

はあ

そう…だね…

はあ

ちよ…ちよつと
だけなら…

ほんとにコレ
挿れたら…この人こと…
長谷くんのこと
思い出せる…？
このずつと
もやもやした感じも
晴らしてくれるの…？



あ あれ…
あれ…?

あッ
だめッ

だ…だめ…

あッ

先っぽ…ちよっと
当てただけなのに…

うそ…だめ…
入ってくる…?

は
入っちゃう…

なに…これ…
へ…変だよ…

にちゅわ

ちゅッ



勝手に入ってきちゃ
ダメえ…

やだ…

あッ

みちッ

あれ…?
でもこの感じ…
もしかして…
ちがうの?

ぬちッ

私…

はあ

おちんちん
好き…かも…

はあ



私のあそこのほうが
おちんちんに吸い付いてる…?

どうしよう

長谷くん…

はあ

ほッ

はあ

それに…体が…

すぐぐ…落ち着くよ…



ほんとに？
藤宮さん！

…やった！
やっぱり体は
正直なんだよ

藤宮さん
もっともっと
俺のちんこ感じて…！

おちんちんが
私の内側をめちゃめちゃに
掻き回してる…！

そしたらきつと
藤宮さんの記憶
取り戻せるよ！

それなのに
やさしく吸い付くみたいに
ぴったり張り付いてきて…

まるで私のカタチに
あつらえたみたいなの…

ううん…
そうじゃない…

先週は
俺たち一緒に
もっともっと気持ちよく
なつたんだからね

でもまだまだ
これからだよ



きつと
私の体のほうが…

長谷くんの
おちんちんの
カタチに…

どう…？
藤宮さん
どんな感じ？

なにか俺のこと
頭の中に
思い浮かばない？



ごめんなさい…っ

長谷くんのこと…
頭の中の記憶には
やっぱり私にも…

…ッ?!

で…でも藤宮さん

俺たちこんなに
相性いいんだよ…?

ほんとなんだ…
俺たち先週ほんとに…

うん…

そのことは
私にも
わかるよ…

え?

きっと先週の私も
長谷くんのおちんちん
すごく大好き
だったんだよね

身体のほうが
しっか
り憶えちゃってたよ…

私のおまんこ
長谷くんのおちんちんに
あんまりびったり
なんだもの



藤宮さん…!

あっ…そうだ!

じゃ…じゃあ藤宮さん!
また俺と
友達に…!!

ん…
どうしよう…
言いにくいんだけど…

えッ…?!

友達になったら…

私が忘れちゃってる
先週一番きもちいいセックス…
また私にしてくれる?

ね 長谷くん…

そッ…そんなこと
あたりまえだよ!

藤宮さんとなら
俺は何度だって…

長谷くん：
これ…凄く
恥ずかしい…

あッ

おっぱい：屋上から
はみ出しちゃうの…

あッ

失週のお昼休み、私は長谷くんと
何度もセックスをしたからです。
でも私はそのことを全て忘れていました。

でも…ッ
すごく気持ちいいよ…!!

失週したはずの
長谷くんとの初めての経験が
何も憶えていなかったのは、
やっぱり少し寂しいです。

あッ

おちんちんが奥の
気持ちいいとこに
ごっごっ当たって
…すごく好き!

あん

でも長谷くんがしてくれ
セックスは、その寂しさも全部
吹き飛ばしてくれれます。

たとえ今日のセックスのことを
忘れてしまったとしても長谷くんがまた来週、
あのセックスを私に教えてくれる…
と思うと、月曜日だって怖くありません。

あッ

長谷くん：
これからも
ずっと：
ずっとお友達で
いてね！

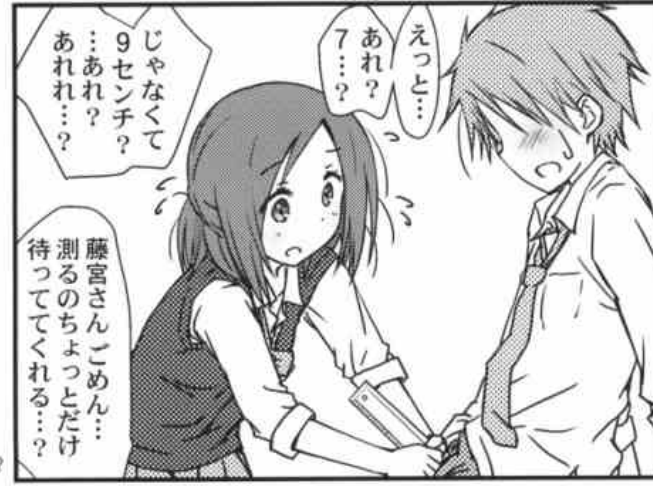
私：長谷くんのおちんちん大好きだよ……！

これからは、毎日……毎週……
長谷くんのおちんちんが
私を気持ちよくしてくる……

友達と学校でするセックスがこんなにも
素敵なことなんだと教えてくれた長谷くんは
本当にかげがえのない特別なお友達です。

長谷くん観察日記

よし日記をつけよう





超平板小娘電視台。